

■宮ヶ瀬ダム安全性について

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震（マグニチュード9.0）では、宮ヶ瀬ダムから最寄りの気象庁観測所（相模原市中野）において震度5弱を観測したことから、当事務所においては、直ちに警戒体制を執りダム及びダム湖の点検を実施しましたが、異常はみられませんでした。

地震の発生から1年が経過することから、改めてダムの安全性についてよくある質問にお答えいたします。

Q：宮ヶ瀬ダムはどの程度の地震まで安全なのか？

（ダムが決壊した場合の被害想定は？）

- 宮ヶ瀬ダムなど国土交通省所管のダムは、ダムの構造の技術的基準を定めた「河川管理施設等構造令」に基づき、地震に対する適切な安全性を確保するように設計を行っています。

これまで、国土交通省所管のダムでは、東北地方太平洋沖地震をはじめ、岩手・宮城内陸地震や鳥取西部地震、兵庫県南部地震においても、ダムの安全性に影響を及ぼすような変状は発生していません。

なお、宮ヶ瀬ダムにおいては、関東大震災クラス（マグニチュード7.9）の地震が相模湾で発生した場合を想定し、ダムの安全性を確保するように設計されています。

よって、ダムが決壊した場合の被害想定は行っておりません。

Q：地震に対する日頃の備えは？

- 宮ヶ瀬ダムでは、日頃よりダムに設置されている観測計器による自動観測及び、ダム管理職員による定期観測のほか、ダム本体等の入念な点検・監視を行っています。

また、地震が発生した場合には、直ちに臨時点検を行うなど、万全な体制を整えています。

ダム本体の内部における点検・監視の状況



揚圧力



漏水量